









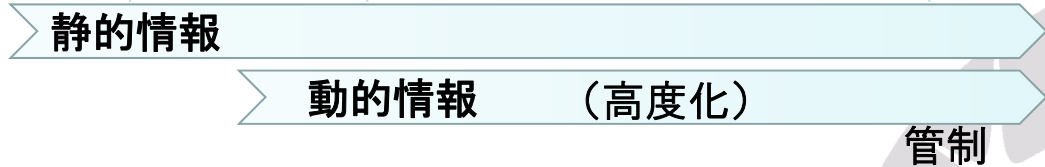
期待実現時期

議論中

 実用化  計画

完全自動走行システム	レベル4	加速・操舵・制動全てをドライバー以外が行い ドライバーが全く関与しない状態	2020年代後半	
準自動走行システム	レベル3	加速・操舵・制動全てをシステムが行う 状態。但し、システムが要請した時は ドライバーが 対応する	2020年代前半	
	レベル2	加速・操舵・制動のうち 複数の操作を同時に システムが行う状態	2017年以降	
安全運転支援システム	レベル1			 
運転支援なし				

自動運転レベルは道路環境に応じて変化



いずれのレベルにおいても、ドライバーはいつでもシステムの制御に介入することができることが前提

自動走行システムに必要な技術

クルマ: 自動走行システム



センサー



人工知能



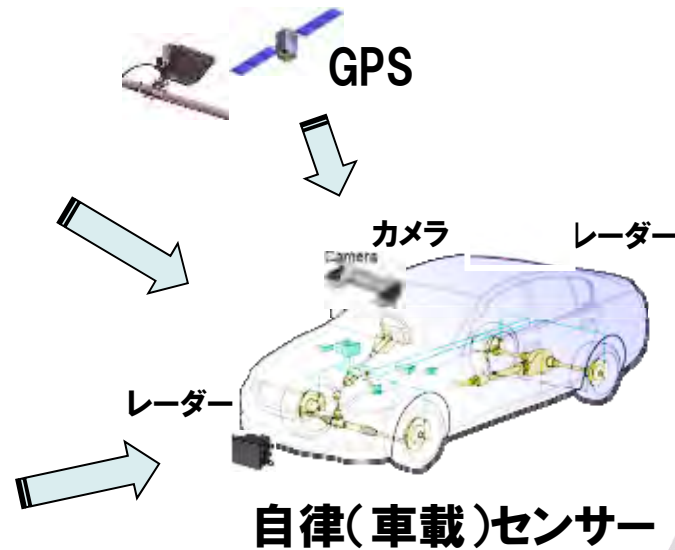
アクチュエーター



高精細なデジタル地図

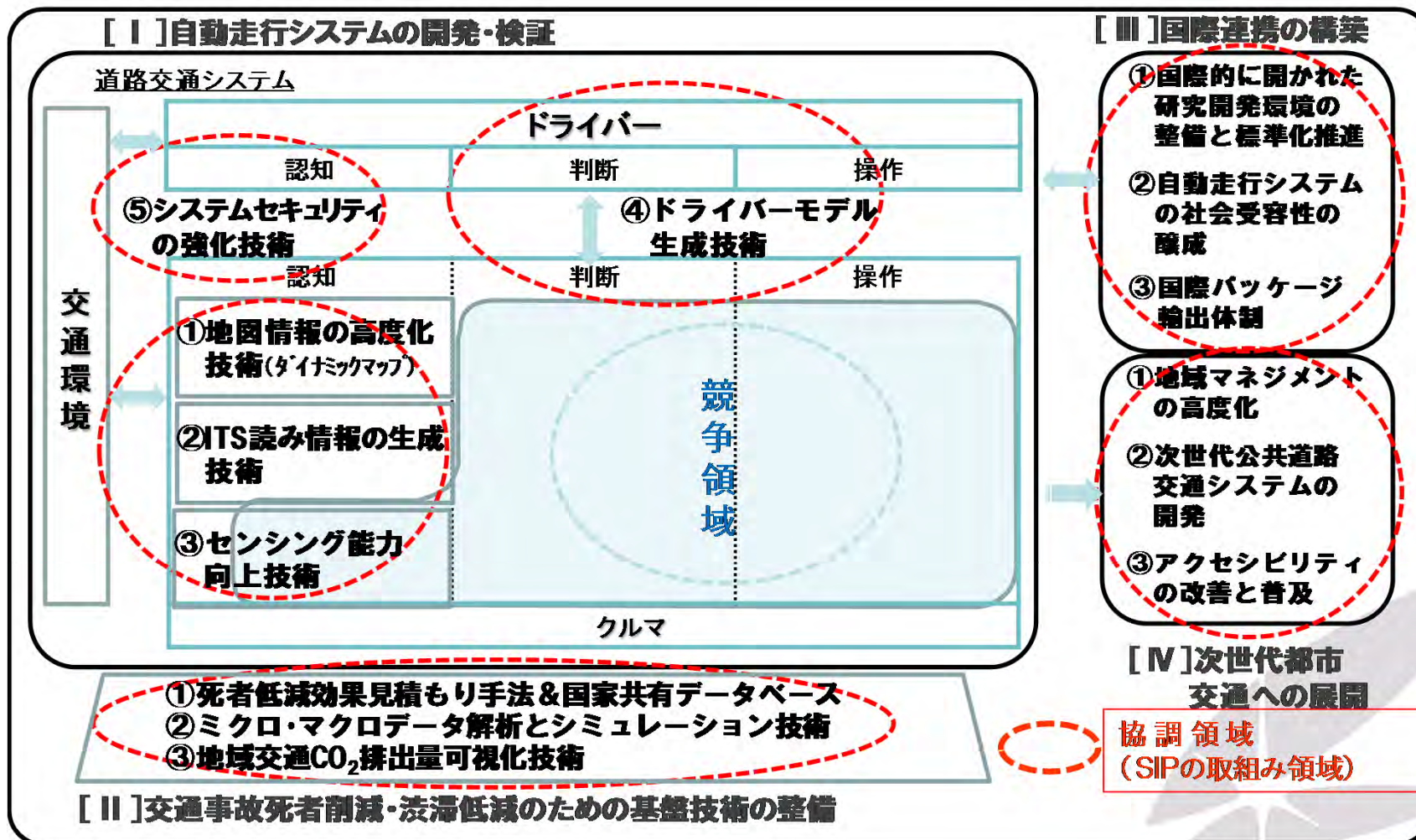


ITS先読み情報



研究テーマ

- 自動走行システムの実用化に向け、国として協調して取り組むべき領域を決定。
- 基盤技術、システム開発、国際連携、イノベーションの現場（都市）を網羅的にカバー。



SIP・自動走行システムで何を変えようとしているのか？

人々に笑顔をもたらす交通社会を目指して Mobility bringing everyone a smile

1. 交通事故を減らす。国家目標の達成。
2. あなたに笑顔をもたらす社会
 - ◇アクセシビリティの改善
 - ◇移動の自由と喜び
 - ◇渋滞緩和
3. 車のダイナミクスが進化
 - ◇もっと ファン トウ ドライブ になる
4. 新産業の創生。国際競争力アップ。



本日の話題

1. 走行環境のモデル化
Dynamic Map
2. データ通信を利用した環境認識
Connected Vehicles
3. 人と制御システムの役割
Human Factors
4. 自動運転普及の影響評価
Impact Assessment
5. 公共交通への適用
Next Generation Transport

